徳島新聞　２０２２年（令和４年）６月１９日　日曜日（１７）スポーツ掲載
徳島新聞社提供

四国高校選手権 前期 第2日

生光学園女子 初優勝

四国高校選手権前期大会第2日は18日、4県で29競技が行われた。徳島県勢の団体は、柔道女子の生光学園が初の頂点に立ち、ライフル射撃はエアライフル女子の城南が初めて、ビームライフル男子は小松島が6大会連続7度目の優勝を果たした。バドミントン男子の徳島商とソフトテニス女子の脇町、フェンシング男子の徳島文理は準優勝。サッカー女子の鳴門渦潮が決勝に進出した。今夏24年ぶりに四国4県で開催される全国総体予選を兼ねた陸上では、女子400㍍リレーの鳴門渦潮が46秒96で1位になるなど男女16人、リレー4校が条件を満たして全国出場を決めた。レスリング女子は53㌔級の藤本成海（つるぎ）が優勝して全国切符を獲得した。第3日の19日は31競技が行われる。（記録は徳島県関係＝個人は一部を除き準々決勝以上＝と決勝、1位）

柔道

【男子】団体予選リーグA組④徳島科技3敗▽B組②鳴門渦潮2勝1敗▽D組②尚波2勝1敗▽決勝トーナメント決勝　高松商2（内容勝ち）2新田　高松商は31年ぶり2度目の優勝。

【女子】団体予選リーグA組①生光学園3勝▽B組③徳島北1勝2敗▽決勝トーナメント1回戦　生光学園1－0高松商　生光学園は初優勝。

▽決勝
生光学園 1－1 今治明徳
内容勝ち
金山 ○優 差 菅原○
○斎藤 縦四方 村上
固め
牛方 引き分け 高濱

主力欠くも接戦制す

思わぬアクシデントに見舞われながらも初優勝にこぎ着けた。生光学園女子は予選リーグ2回戦で先鋒（せんぽう）の木村が反則退場となり、次戦以降に出場できなくなった。ポイントゲッター不在でオーダー変更を余儀なくされる中、決勝の今治明徳（愛媛）戦は1－1の内容勝ちで接戦を制した。

優勝を引き寄せたのが中堅の斎藤。県総体決勝の敗戦の悔しさをぶつけるような積極的な戦いぶりで相手を押さえ込み、鮮やかな一本勝ち。静岡から柔道留学で生光学園に進んだ1年生は「相手の仕掛けにしっかり対応し、自分のスタイルを貫けた」と声を弾ませた。

先鋒の敗戦から五分に持ち込み、最後は頼みの大将・牛方。だが本来の積極性がやや影を潜め、結果は引き分け。自らの勝利ですっきりと勝負を決められなかったとあって「（木村の）退場で少し気持ちが下がっていたのかも。試合内容には納得していない」と厳しい表情で振り返った。

それでも、今春の全日本選手権に大会最年少で出場した牛方は「気持ちを切り替え、あすの個人戦では優勝できるように頑張りたい」。決勝の畳に上がれなかった木村も「今日の悔しさを個人戦にぶつける」と前を向く。四国インターハイに向けて2人は「初戦を確実に取って一つでも上を目指す」と口をそろえた。

（山口隆弘）

女子団体決勝・生光学園対今治明徳　中堅戦で果敢に攻める生光学園の斎藤（上）＝松山市の愛媛県武道館（立花善晴撮影）